

バースンソルン・ディンブルニム研究員（モンゴル）



はじめまして。私はモンゴルから来ましたバースンソルン・ディンブルニムと申します。

私は国際関係に関する学部で学び大学を卒業した後、政府職員として業務に従事し始めました。そして災害担当機関である国家危機管理庁（NEMA: National Emergency Management Agency）の国際部局でキャリアをスタートしました。NEMA はモンゴル国内において様々な防災活動を実施する役割を担っています。防災活動の効果的実施と国際貢献を目的に、NEMA は最新災害情報を集約し、国連関係機関と連携して計画立案なども行っています。さらに、防災における災害抑制や復興に関する国際的なプロジェクトの支援なども行っています。災害時における臨時対応のための専門的なスキルの向上という点においては、消防士の訓練を目的とした国際都市搜索救助研修などに参加することは大変効果的であると思います。これは、災害時において求められる自己で考え行動するためのスキルを向上させるすばらしい機会であるかと思っています。このようなことから、緊急時対応に関する災害予防のトレーニングやセミナーに積極的に参加することが必要です。と思います。

モンゴルにおける防災に携わる若い世代の代表者の一人として、私は多くの国々の専門家から学ぶすばらしい機会を得ています。これらはより安全で幸福な社会構築を目的として、潜在的な災害の被害を抑制するために活動されています。この結果、私は現在の職務に誇りを持ち防災の分野において努力を惜しむことなく今後も前進したいと思います。

次に、私の国モンゴルについて少し説明したいと思います。モンゴルの南部にはゴビ砂漠が広がり、そして北部と西部には山岳地域が広がっています。前述しましたが、モンゴルはステップ気候に属しています。北部にはロシア、南部には中国が位置していて、津波や火山、火砕流などといった自然災害の経験はありません。一方で、モンゴルは地球温暖化にともなう厳しい寒波(Dzud)が有名で、その他、地震、地すべり、大雪、雷雨、鉄砲水、また、工場事故、ビル火災や森林火災などの人的災害も経験しています。一方で、災害がない地域はごく限られています。これら様々な種類の災害被害抑制のためには、防災における取り組みにおいて、行政レベルの大きさに関係なく密接な協力が大変重要なのです。

私は、この客員研究員プログラムは、防災分野における国際協力を示す優良事例のひとつとして挙げるができると思います。今後、私はモンゴルでは経験できない様々な災害

対応や防災活動を学ぶことができます。